



Ouroboros

Ouroboros



AUTO STAFF SUEHIRO

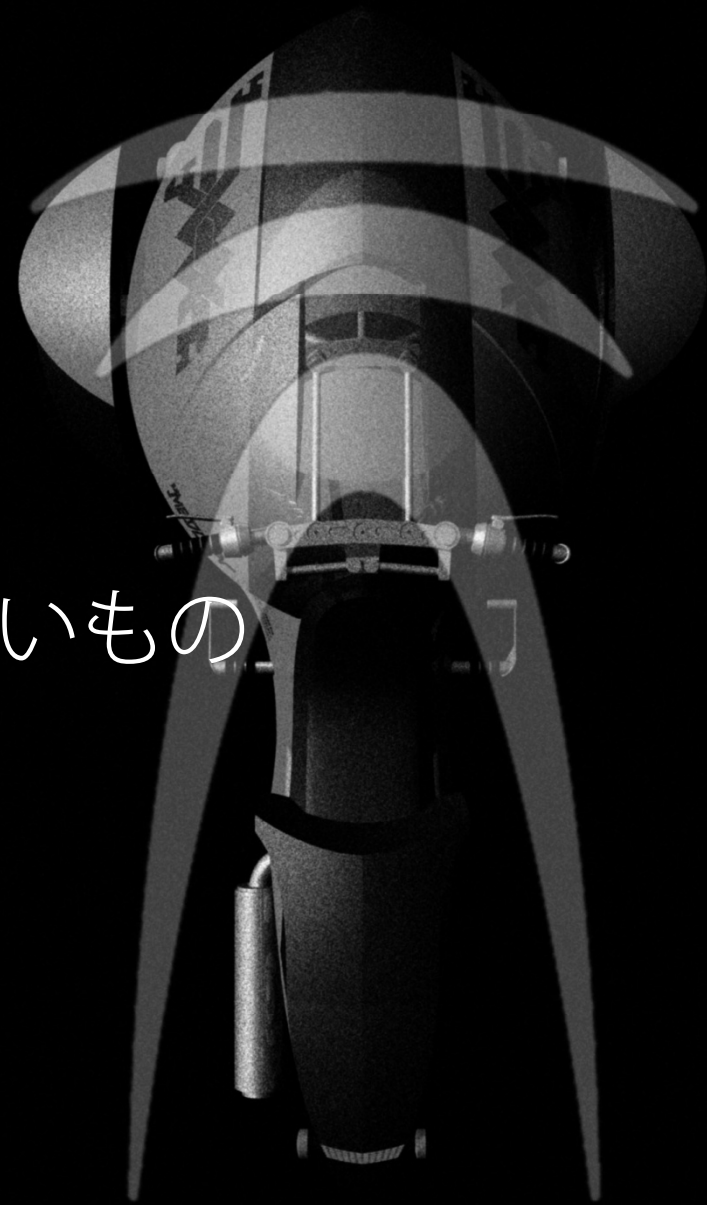
x



z nug design

コンセプト

誰かではなく、自分がほしいもの



Ouroboros



AUTO STAFF SUEHIRO

x



znuq design



快適 や 合理 の 反対 に ある も の

Ouroboros



AUTO SUEHIRO x



znug design

重力を感じる、ということ



Ouroboros



AUTO STAFF SUEHIRO x



znuq design

視線を感じる、ということ



Ouroboros



AUTO SUEHIRO

x



zrug design

ひとつひとつ、世界にひとつ



Ouroboros



AUTO STAFF SUEHIRO

x



znuq design

車両概要

バイクにない安定感、クルマにない操縦感

前2輪 / 後1輪のリバーストライク

強烈な横Gを体でおさえこむ楽しさ



Ouroboros



AUTO SUEHIRO

x



znuq design

普通免許で乗車可能

タンデムライドも楽しい2人乗り



* 法規上は必要ありませんが、安全のために、ヘルメットの着用をおすすめしています。

Ouroboros



AUTO SUEHIRO x



ZUGA design

1泊2日の荷物を積載可能

前ヒンジはねあげ式トランク

中央下段 58リッター

中央上段 40リッター

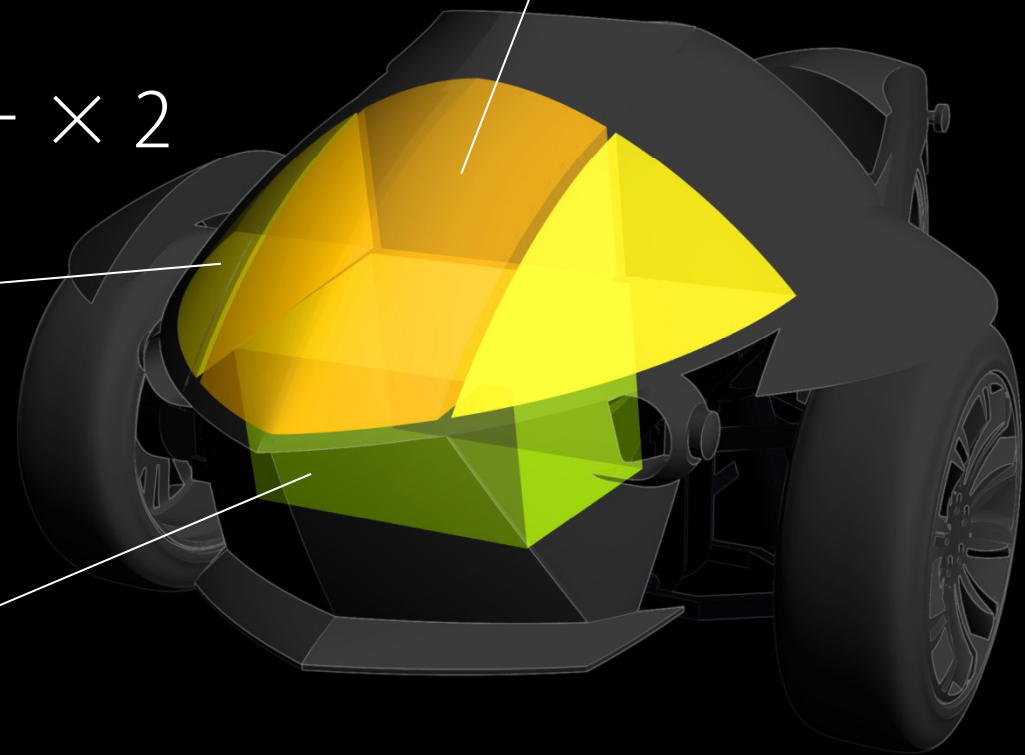
左右上段 10リッター × 2



x2



x2



古き良きキカイを発掘して使う

ouroboros™ project (ウロボロス™ プロジェクト)

思い入れのあるバイクのエンジンを、全く新しいカタチでよみがえらせることができるとしたら？

Ouroboros

諸元表

全長	: 2,950 mm	フレーム形式	: アルミ+スチール
全幅	: 1,620 mm		: デルタボックス + セミラダー
全高	: 1,080 mm (スクリーン含まず)	サスペンション	
ホイールベース	: 1,800 mm	フロント	: ダブルウィッシュボーン
トレッド	: 1,425 mm	リア	: リンク式
乾燥重量	: 340 kg *		
排気量	: 998 cc *		
最高出力	: 140 PS *		
タンク容量	: 22 リットル		

* '97年式 YAMAHA FZR-1000 のエンジンを搭載した場合。

オートスタッフ末広 中村の想い

はじめに

世の中には色々な乗り物があり、いろんな人たちが移動や仕事、そして楽しみ等に乗り物に乗ります。便利であればあるほど使用する人間が楽になり、快適に移動できて仕事も楽にこなせるようになります。便利さや快適性に対価を支払う、これは正しいあり方で、現在は安全で快適な乗り物が増えてきました。ではオートバイはどうでしょう？ 雨風にさらされ、決して快適とは言えません。長距離は少し苦手ですし、見た目にも危険なイメージがつきまといまいます。しかし、乗ったことがある方なら知っている楽しさがあります。体で季節を感じて走る贅沢な乗り物です。

便利で快適な乗り物が多い中、なぜまだオートバイがあるのでしょうか？ 安いから？ そんなことはありません、とても高価な商品です。オートバイには、操る楽しさがあるからではないでしょうか？ 自動車では味わえない走ることの達成感！ 私たちが思う「操ることの楽しさ！ 走ることの喜び！ そして、不便を楽しむ！」 オートバイに、もう一輪加え、フロント2輪、リア1輪のロングドライブも楽しめる車両を開発しました。

基本コンセプト

「ouroboros」は、まさに「操ることの楽しさ！ 走ることの喜び！ そして不便を楽しむ！」のコンセプトの基に生まれた車両です。3輪なので転倒はしにくいものの、4輪自動車の様に簡単に操縦は出来ません。旋回時は重力と速度のバランスを考えて操縦をしないと上手く走れない。でもそのバランスが上手くいくと、2輪でも4輪でもない新しい感覚を味わうことが出来るはずです。まさに操ること、走る事を楽しめた瞬間です。

自動車ユーザーが、オートバイやサイドカー、トライクなどのオープン車両にもつイメージは「雨が降ったらどうするの？」。そうなんです、濡れましょう！ まさに「不便を楽しむ！」確かに濡れるのはイヤなものですが、今の時代快適を求めるのは簡単で、車で移動すれば濡れずに済みます。レインウェアに着替え、あえて風や雨を感じて一生懸命走るのも、後になれば楽しい思い出になると思います。

今回開発した3輪オートバイ「ouroboros」は、お客様のご要望を聞き、一台ずつ製作していきます。我が社は大メーカーのような大量生産を行うための設備を有しません。要するに高効率化が出来ない訳です。大メーカーなら生産ライン、製造ロボットを用いてクリアできるのですが、我々には出来ません。手作りであることの優位性を追求していきたいと思えます。そのことを考え設計段階からシンプル化を行い、機械生産では出せない職人による丁寧な作り込みで機械生産に負けないクオリティを実現していきます。機械化による大量生産はユーザーが希望する微妙な仕様変更には対応出来ません。これに対応するには手作りにはかなわないと思っております。

Ouroboros



AUTO SUEHIRO x



znuq design

製造コンセプトは「オーナーの思い入れの一台」 「ouroboros」は基本的にはオートバイを改造した3輪オートバイで、車検証上の形状は「側車付きオートバイ」です。基本ベースのオートバイはオーナーの思い出の車両や、使ってみたいエンジンをチョイスしての製作が可能で、本当の世界に一台という車両が出来上がります。

環境面ではどうでしょう？この車両は現在乗っている車両、又は中古車両をもとに製作することが可能です、これによって捨てられる筈だったオートバイが、新たな形で蘇る事が出来ます。今話題になっている産業廃棄物の低減にも役立っています。しかもローコストで製作可能です。

「ouroboros」で出かける楽しさ！

この車両は2人乗りでオートバイ同様前後に乗ります。トランクには、1泊2日ぐらいの荷物が積めて、ケテル等の同時通話システムを装備すれば夫婦やカップルで楽しく会話をしながら出かけることが出来ます。高速道路や一般道路又はワインディングを二人で体重移動をして楽しく走る事が出来ます。でもオートバイのように常にバランスをとっているのではないので、疲れもなくロングドライブが可能です。二人で協力するというのは車ではあり得ませんが、「ouroboros」は走る楽しさを共有出来る車両です。また、サイドカーとは違い、一人で乗っていても様になる車両です。そして、自動車では考えられないくらいの注目度！これをきっかけに旅先で、色んな方が声をかけてくるでしょう。そして、となりにどんな車が来ても貴方の「ouroboros」が目立つと思います。オートバイでは味わえない安定感、車では体験できない操縦感を楽しんで下さい。

しかも「ouroboros」は普通自動車運転免許で運転できるのです！ 安全上かぶっていただくことを推奨していますが、法規上はヘルメットも必要ありません。

究極のニッチマーケット探せ！

世の中は便利で快適で安全が当たり前、これはとても重要なことですが、自動車はほとんどがオートマチックになり、売れ筋はミニバン、今やスポーツカーはどこに行ったのでしょうか。操縦する喜びをなくしつつある車社会、どんなに高級車でも、窓から見る景色が一緒では、乗っていてつまらないと思いませんか？ オープンエアで自然を感じ「操ることの楽しさ！走ることの喜び！そして不便を楽しむ！」このコンセプトは今、現代の自動車メーカーにかけている点では無いでしょうか？ たいそうな事をいっていますが、「大メーカーが見落としている分野で小さな畑を耕して育てていこう。」いわば究極のニッチマーケット探せ！です。

Ouroboros



AUTO SUEHIRO



znuq design

デザインコンセプト znug design 根津の想い

「リバーズ・トライクならではのカタマリ」

既存のリバーズ・トライクは、バイク、クルマ、ジェットスキーなど、なにかをリファレンスして造形しているものが多く見受けられますが、ouroborosでは、どのカテゴリーにも属さない造形をめざしました。

「記号性のある強いカタチ・表情を変えるカタチ」

幾何学的で力強い造形は、リバーズ・トライクという独特の形態を際立たせています。エンジンや、特長である大容量のトランクを内包するフロント部に、強いかたまりを持たせ、前進感を表現しています。

平面視はソニックブームをイメージしています。これは同時に私がデザインした、オートスタッフ末広の新しいマークに重なるようにもなっています。

見る角度によってさまざまに表情を変え、見るたびに新しい発見がある、そんな見ごたえのあるカタチを狙っています。

「走りにいざなう眺め」

独特なステアリングシステム越しに見えるメータや、球状のフード、左右のフェンダーなど、シートにまたがり、前方をにらんだときに、アドレナリンが出てくるような眺めを創りだしています。

「命名の由来」

ouroboros（ウロボロス）は自分の尾をくわえたヘビで、「死と再生」「相反するものの統一」などを意味しています。古いエンジンやパーツを、まったく新しいカタチで蘇らせる、このプロジェクトを象徴するシンボルとして、もっともふさわしいと考えました。

車体の造形が、獲物を襲う瞬間の、頭を高く構えたヘビにも見えることも、命名の由来になっています。



Ouroboros

Ouroboros

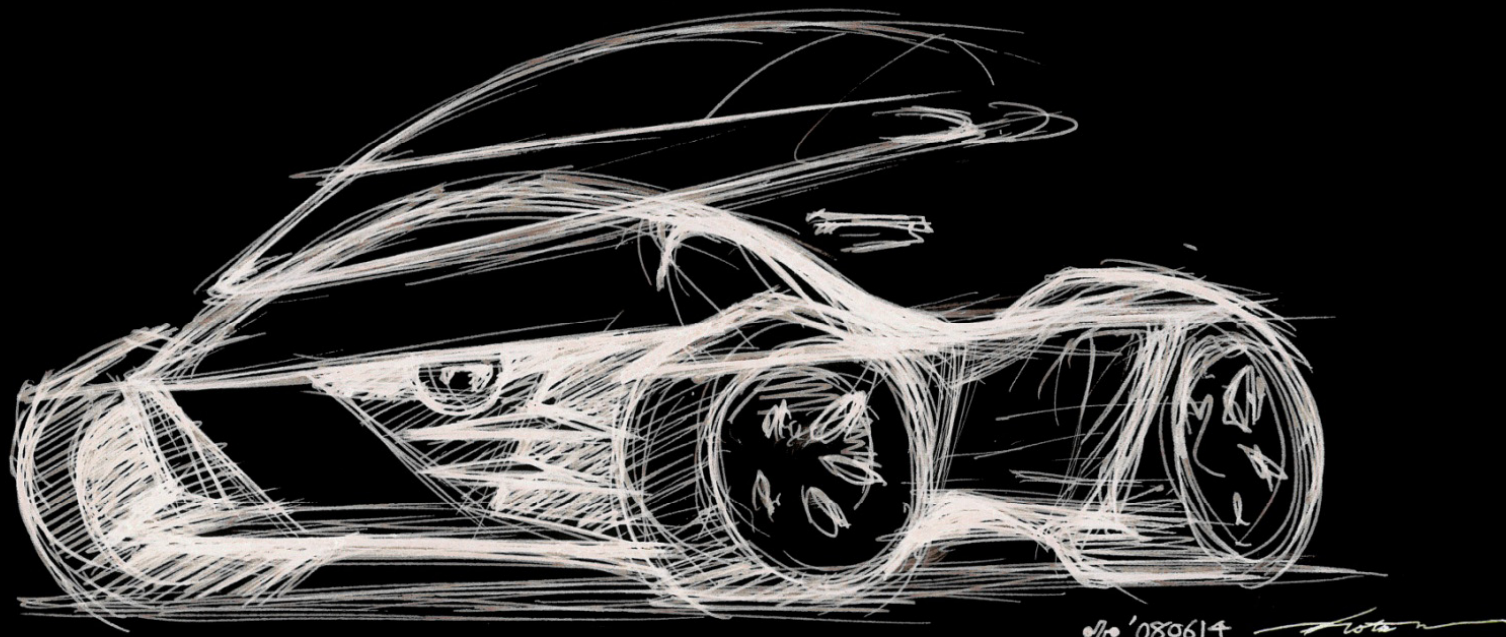


AUTO STAFF SUEHIRO x

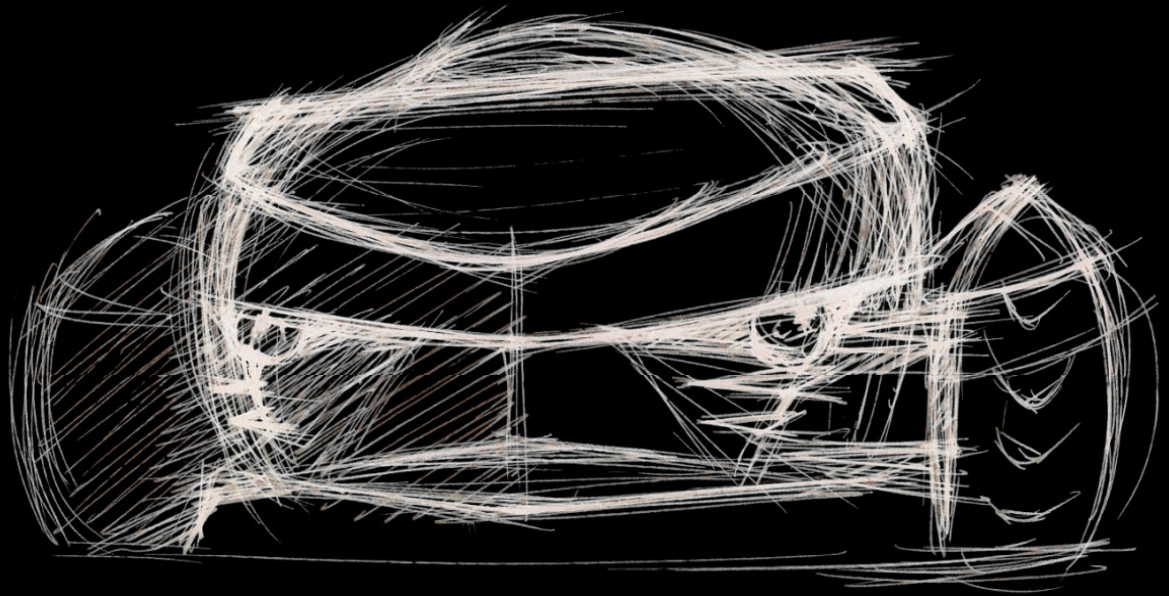


z nug design

アイデアスケッチ



080614 *[Signature]*



Ouroboros

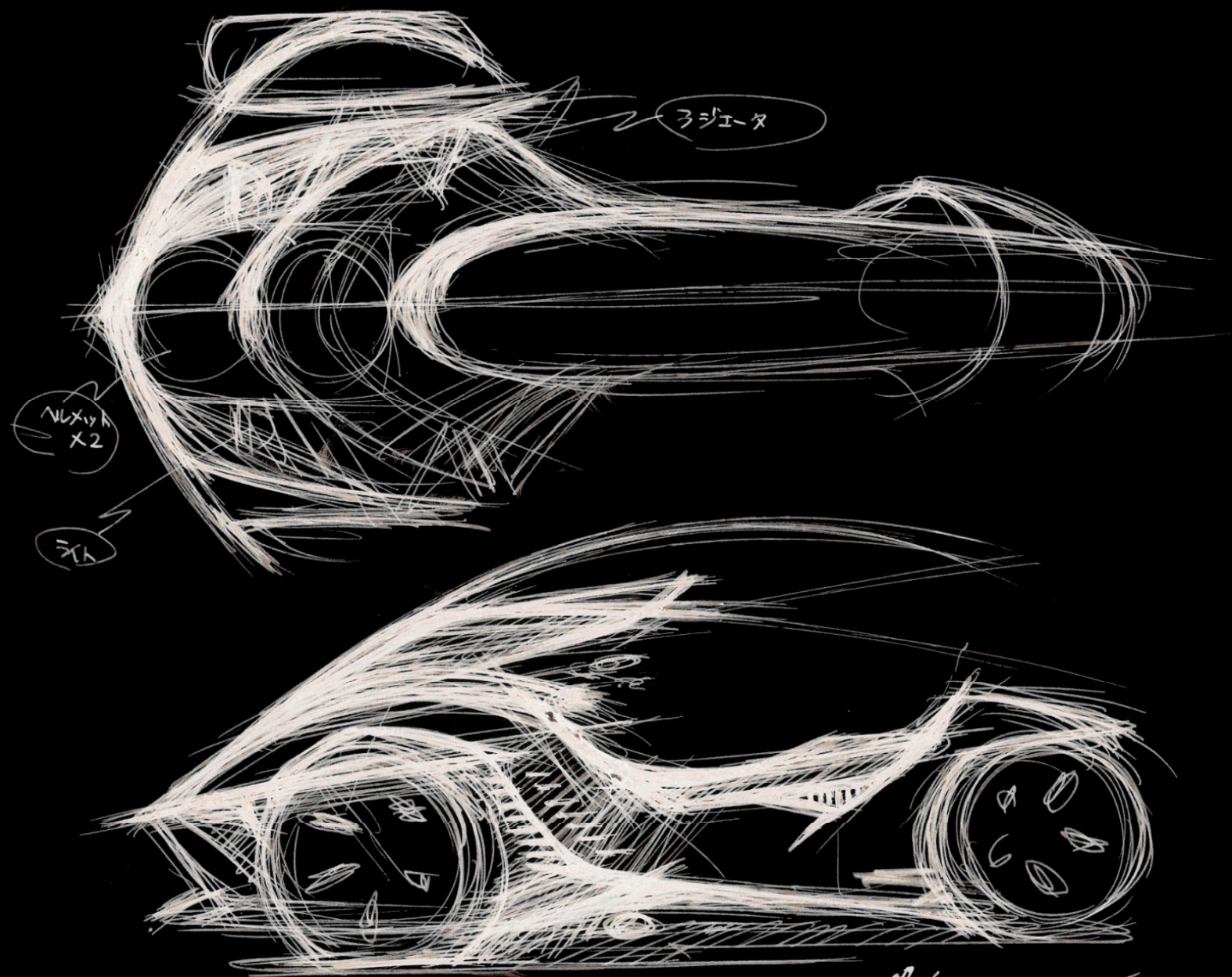


AUTO STAFF SUEHIRO

x



znuq design



080614 *Hotaru*

制作過程



Ouroboros



AUTO STAFF SUEHIRO

x



znuq design



Ouroboros



AUTO STAFF SUEHIRO

x



znug design



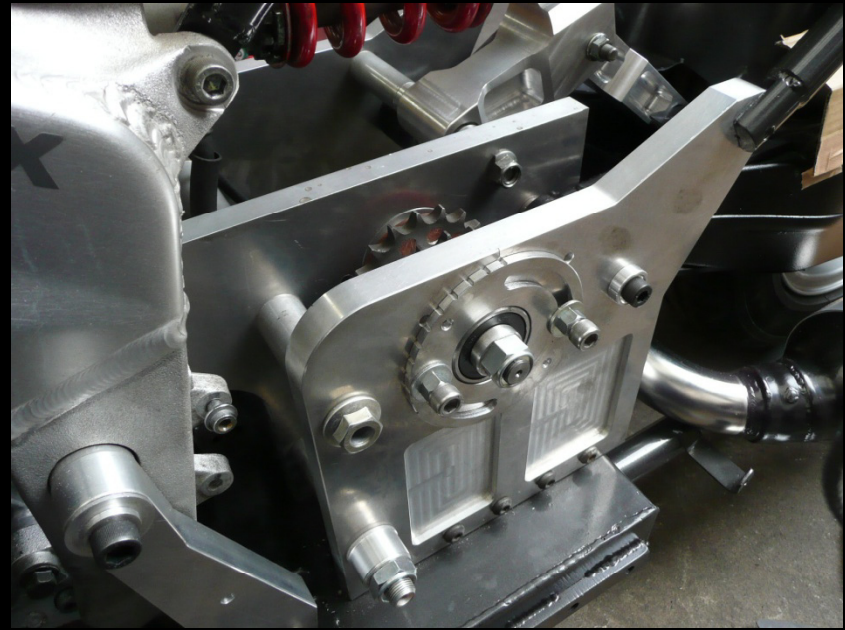
Ouroboros



AUTO STAFF SUEHIRO



zbug design



Ouroboros

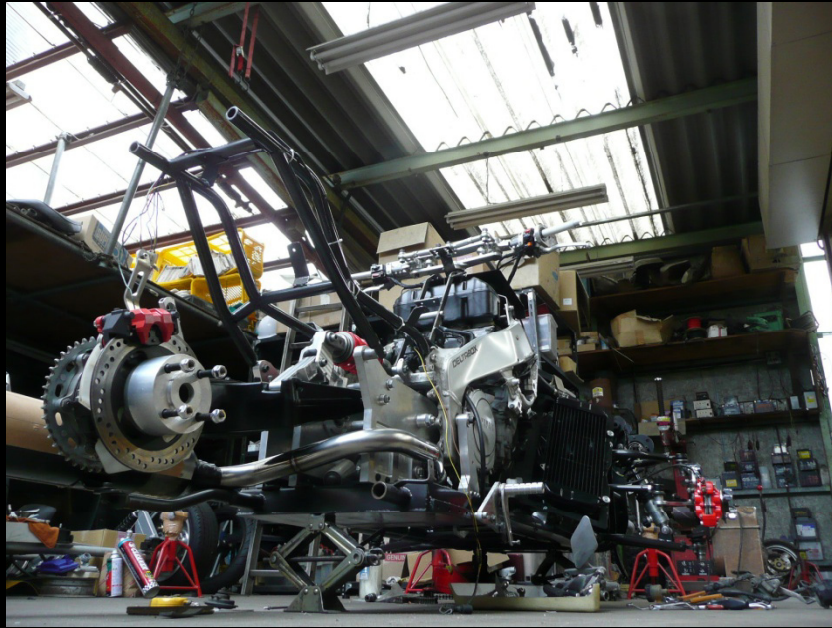


AUTO
STAFF

SUEHIRO x



z nug design



Ouroboros



AUTO STAFF SUEHIRO



znug design